

いきいき健康術 第65回

『ノロウイルス胃腸炎 感染予防の“三種の神器”』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、京丹波町病院小児科医師の細井創先生。ノロウイルスによる感染性胃腸炎の予防に関するお話です。

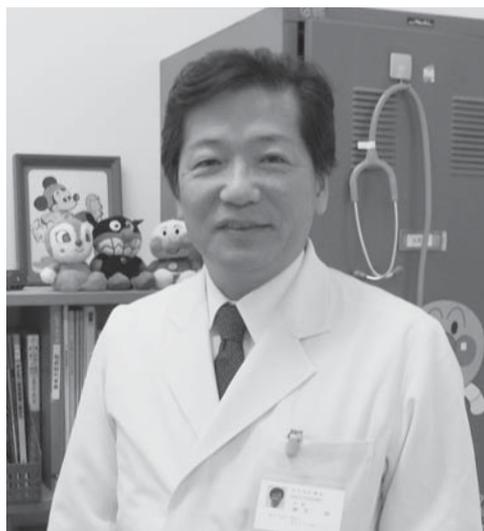
突

然の嘔吐、そして下痢。子どもだけでなく、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんまで、次々に…。今年もノロウイルスによる感染性胃腸炎流行の季節になりました。ノロウイルスらによる感染性胃腸炎感染の予防についてお話します。

ノロウイルス感染予防の「三種の神器」は、①せつけん、②手袋、③漂白剤です。

患者の便や吐いた物は、大量のウイルスと一緒に排出されますので、予防のために食事の前やトイレの後にはせつけんを使い、流水でしっかりと手を洗いましょう。便などの処理をするときは、素手で触らずに必ずビニール手袋を使用してください。汚物の消毒は、乾燥する前に市販の塩素系消毒剤（漂白剤）を希釈して行ってください。汚物が乾燥するとウイルスが宙を舞い、それを吸い込んで感染することさえあります。

そのほか、タオルなどは個人専用のものにして、共用で使用しないことが重要です。食品中のウイルスは、しっかりと熱を通すことにより感染性をなくすことができます。目安は85℃で二分以上の加熱といわれています。下痢や嘔吐などの症状がある人は、食品を直接取り扱う作業を



小児科医師 細井 創 先生
(京丹波町病院)

しないことも肝要です。

もしもお母さんが発症したときは、無理して一家の食事を作らせたりすることのないよう、家族皆で協力して休ませてあげてくださいね。

京丹波町病院情報

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。

☎ 86-02220